

マイマイ目（柄眼目）キセルガイ科

ニシノシマガセル

Stereophaedusa nishinoshimana (Pilsbry, 1909)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵28

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

名前が示すとおり、隠岐（西ノ島）の固有種である。本種は西ノ島においてきわめて限られた場所に生息し、個体数も少なく絶滅が危惧される。

【概要】

比較的小型のキセルガイで、殻高18-20mm、殻径4mm、12-13層。殻の形は紡錘形で殻口は卵形になっており、殻の表面は暗褐色で粗く鋭い線条がある。唇縁は褐色で、幅広く反転し厚い。上板は少し斜位で唇縁に達している。

生息環境は常緑広葉樹林内の朽ち木の下や落ち葉が積もり湿っている場所である。確認範囲から数m離れるだけで、生息していない。

【県内での生息地域・生息環境】

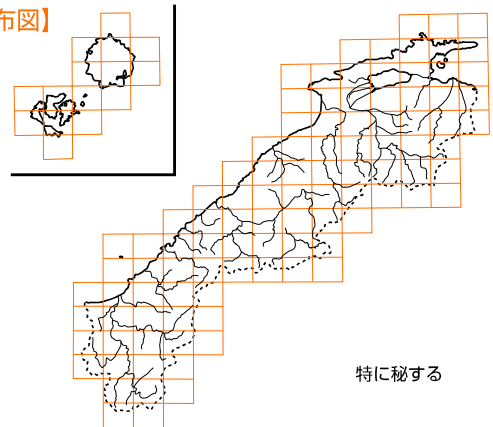
隠岐（西ノ島）固有種で、それ以外には生息が確認されていない。上部にかさとなる大木がないなどの原因により直射日光が差し込み、乾燥の激しい場所には生息していない。過去の記録のある産地においても、放牧等で

乾燥化し、生息を確認できない場所が多く、生息地はきわめて少ない。

【存続を脅かす原因】

大木の伐採、放牧地の拡大、台風等による大木の倒木等生息地の乾燥化。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

マイマイ目（柄眼目）ナンバンマイマイ科

オキビロウドマイマイ

Nipponochloritis okiensis (Pilsbry et Hirase, 1908)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵28

島根県固有評価：隠島根県固有種、基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

【選定理由】

隠岐（島後）にのみ生息する陸貝であるが、生息数がきわめて少なく、生息地も限られる。さらに、生息に適した環境が年々減少している。

【概要】

殻高18-19mm。殻は著しく扁平で、濃い暗褐色である。螺塔部は扁平で中央へわずかに落ち込んでいる。殻表は、やや粗草で覆われている。殻高は斜位で半月に見える。軸心はわずかに広がり、内唇の薄い滑層に連なっている。臍孔は広く深く開いている。

【県内での生息地域・生息環境】

本種は隠岐諸島内にすむ陸貝の中でも個体数が少なく特にまれな種である。

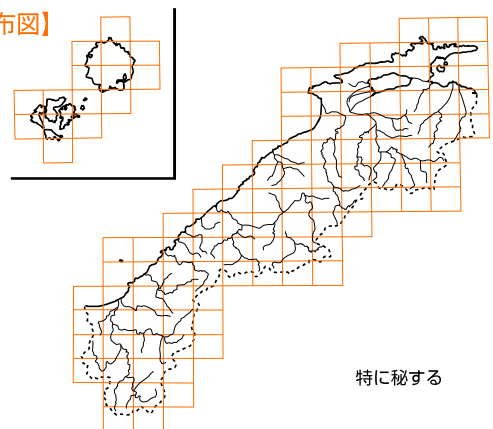
生息環境は、人の手が加わっていない自然林が多く残る場所であり、転石がある場所に生息する。

【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による大木の倒木

等生息地の乾燥化。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

陸・淡水産貝類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

マイマイ目(柄眼目) オナジマイマイ科

アラハダシロマイマイ

Trishoplita pergranosa Pilsbry et Hirase, 1908

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵28

島根県固有評価: 島根県固有種、基準標本産地

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

隠岐の西ノ島と島後に生息しており、生息個体数も少ない。

【概要】

殻は小型で、殻径14mmで白色。幅広い褐色帯が殻底に現れる。周縁の上には細い褐色帯がある。

常緑広葉樹林の林縁を好んで生息しており、建物の壁面や、遊歩道の手すり等に匍匐する個体を見かけることが多い。

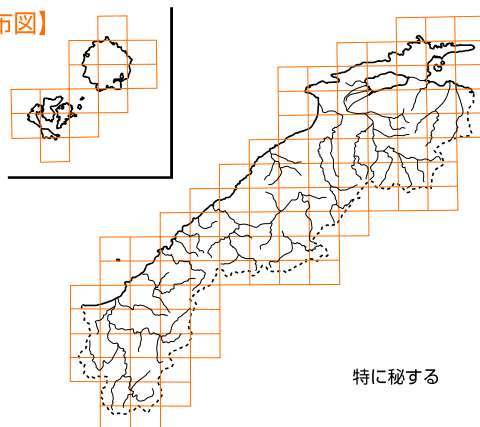
【県内での生息地域・生息環境】

隠岐(西ノ島、島後)のごく限られた場所に生息する。

【存続を脅かす原因】

大木の伐採、牧草地の拡大、台風等による倒木等生息地の乾燥化。

【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎																	

イシガイ目カワシンジュガイ科

カワシンジュガイ

Margaritifera laevis (Haas, 1910)

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵28

島根県固有評価: 分布限界種(南限)

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

本種は、かつて島根県の中央部を流れる周布川水系の上流には、普通に生息していたものである。これらは1937年にカワシンジュガイの南限地として、国の天然記念物に指定され、旧・金城町波佐では保護されていた。しかし再三にわたる水害とまた河川の改修のため生息が見られなくなり1971年天然記念物の指定は解除された。だが、これらの水系のいずれかには生息しているものと考えられる。

【概要】

本種は淡水に生息する二枚貝で、殻長は最大140mmに達する。殻幅は42mm前後の横長の貝で、殻はやや厚質で、殻長は前方に寄り、腹線はわずかにくぼみ、殻表は黒い殻皮に覆われている。内面は真珠光沢が強く美しい。山間地域の清流の砂礫底に後端を立て生息しているので、生息地ではタチガイ(島根県)、タチツガイ(広島県)という方言で呼ばれている。カワシンジュガイの名の由

来は、昔ヨーロッパではこの貝から真珠を採っていたのでこの名がある。

【県内での生息地域・生息環境】

上記のように、旧・金城町波佐の周布川水系に生息するものは、国内での生息南限地の一つということで天然記念物の指定を受けたが、その後の大水害のために流出した土砂でカワシンジュガイはすべて埋没し、その後も再三にわたって水害のため、波佐地区のカワシンジュガイは消滅した。周布川水系、あるいは三隅川水系で生息している可能性がある。

【存続を脅かす原因】

河川改修、土砂の流入、水温上昇、宿種であるサケ科魚類の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		△									◎										